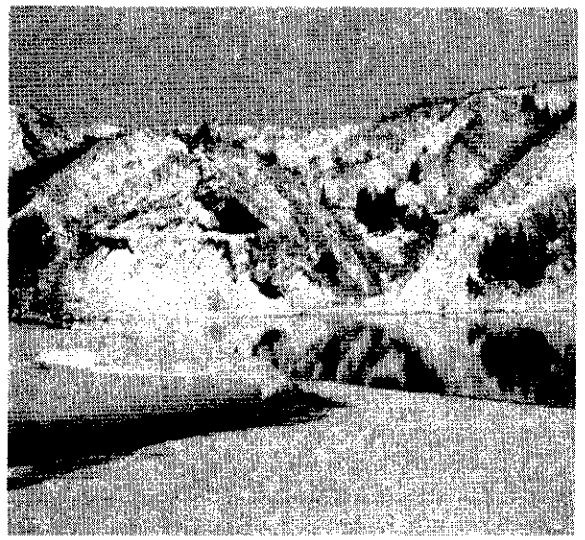
第222号
発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館
毎月1回15日
定価　1部　5円

なかさと

1月1日現在

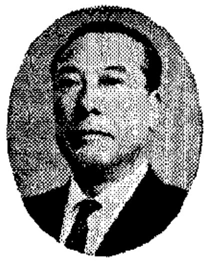
人口	7,339（−9）
男	3,605（−7）
女	3,734（−2）
世帯数	1,679（0）

カッコ内は前月との比較



年頭のご挨拶

中里村長　高橋幸作



輝かしい昭和五十年の新春を迎えるにあたり、村民のみなさま方に、謹んでご挨拶を申し上げます。　政府は内政の充実を一九七〇年代の課題と申しておりましたが、道は遙かにして年代は半ばを過ぎ去りました。このことは申し上げるまでもなく最近における社会経済の著しい進展に伴い過疎過密をはじめ、公害、交通対策など重要かつ困難な問題がたえず提起され、その早急な解決が求められているからであります、このような事態に対処していくためには、国と地方公共団体とが一体となって施策を推進する必要があることにほかならないものと思いますが、とくに町村は、それぞれの地域における総合的な行政主体として住民の生活に直結する行政を担当しているだけにその果すべき役割はますます重要となっております。本年は中里村誕生以来二十年ようやく成人の年を迎えた訳でありますが、村道の舗装率が一〇%に満たないなどの現状から考えましても、積極的にその推進をはかる必要があります、さらに学校教育施設の充実、水道その他環境の改善、青少年老人等の対策についてもすみやかに適切な配慮がなされなければならぬものと思っております、而しながら一昨年のオイルショック以来諸物価の暴騰は著しくこれに対する国の施策は、公共事業をはじめ総需要の抑制並びに事業繰延べ等地方の行財政に一速の不安と焦燥を投げかけておりましたが本年もさきに発表された昭和五十年度国の予算における大蔵原案に示されているとおり公共事業費の上昇率は、〇%以下に教育費等についても極力圧えようとしており、環境改善や福祉重点といいながらも義務的役費の増加が目立っております。わが中里村のように農業を主体としている地域においては、なお厳しさがうかがわれますが、将来世界的にも食糧危機が予想されており、立地条件に適した農業の振興策が求められているのであります、農業基盤を効率的に整備し、苗場山ろくの開発等併せて一層の推進を図らねばならぬものと考えます。　新設が決った国道三五三号線の早期改良と無雪化の促進、津南高原年金保養基地に対応する道路網の整備将来に悔のない中里村に適合した苗場山ろくの開発、第二次山林振興事業の推進等、国県予算の大巾な確保に限りある村財政の効率的な運用により、住みよく明るい中里村、村民ひとしくわが「ふるさと」としてこよなく愛していける郷土、の実現をめざして全力を傾注する所存であります、このことは私が、常に心に念じかつ信じている課題であります、村民のみなさまの深いご理解とご協力をお願い申し上げますと共に、みなさまのご健康とご幸福をお祈り申し上げまして年頭のご挨拶といたします。

新年の御挨拶

村議会議長　高橋熊蔵

明けましておめでとうございます。「昭和五十年」……なんとなく記念すべき意義のある年のような気が致します。

昨年は御承知の通り国の内外が政治的にも経済的にも大きく変動を極めた年であり、わが国の経済は重大なる危機をむかえ悪性インフレさえももたらしした。そしてそのまま新しい五十年をむかえたのであります。

わが村としても昨年は余りよい幸せの年とは言えない一年でした。そんななかにも苗場山麓開発事業の手始めとして小松原国有林の買受、更に俗にいう十二線の国道昇格等、村の将来に大きく期待と希望のもたれる事業の決定がなされた事は意義深い事であり、同慶にたえないところであります。

今や村の開発路は東西南北より進められ、先ず十二線の開通工事を始め苗場山麓第二地区の開発、宮中橋の架設、更に東頸城への道路の開拓、そして八ケ峠より土倉、倉下へ通ずる魚沼スカイライン開削等四方から村の発展の進路が着手せられています。この重大なる時期に直面している私共議会は、これらの事業の円満なる進歩と早期完了を実現するためにも、今年こそ村民各位の期待に応えるべく最善の努力と一層の精進を御誓い申し上げるものであります。

なにとぞ各位の特段な御支援をお願い申し上げ、本年こそわが村がよりよい幸せの年であるよう祈念致しまして年頭の御挨拶と致します。

寄附

歳末たすけあいとして去る十二月二十一日、二十二日にそれぞれ村社会福祉協議会あて寄附が寄せられました。

○川田セツさん（田中）
より二千円

○中里村役場職員労働組合
より一万円

倉俣地区で 新春娯楽大会

倉俣地区新春娯楽大会が左記の要領で開催されますが、同地区はもとより、他の地区からの参加者を大歓迎いたします。ふるってご参加下さい。

一期日　二月二日（日）
　午前九時半より
一会場　倉俣生活改善センター
一種目　囲碁、将棋、麻雀
一会費　一人二五〇円
一申し込み〆切　一月二十五日
　当日も受け付けます
一申し込み場所
○倉俣　高橋英男（電八四八四）
芋川　高橋源平（電二二五二）
尚参加者は昼食を持参して下さい。

梵声　新玉の年のはじめ

斉藤大馨

あけましてお目出度う存じます

「新年の年のはじめの御ことほぎ、めでたく申し納め候」という賀状の句を、もうおぼえている人は少ないだろう。正月といえば恵方まいりがさかんで各地の神社の正月参拝、成田山のようなお寺に詣でる人々は年々ふえてゆく。

それはまことに結構なことである。一年の新しい門出に、初日の出にも似た明るい気持で人生を出なおそうとの考えは、いかにも日本人らしく人の心をただすものがある。しかし、案外何が何だかわからずに、縁起をかつぐことに終ってしまうことも多い。

一休禅師は「門松は冥土の旅の一里塚、めでたくもありめでたくもなし」と詠んだ。月日のたつのが早すぎて、無常を感ずることも多い。正月を正直にそう感じ、そう考えてみるのも人間の生活に意味をもたらす大切なことだろう。

正月に門松を立てて祝ったのはじつは冥土へ行った人々がもう一度わが家へかえってくるミタマ迎えのしるしだった。いわば祖先のおまつりをしたものである。

「新玉」のことばは、そこにかかっているようである。

類聚三代格という書物に、当時諸家諸人の家で、六月と十二月にはお抜いをして、神をまつり、宴会をやったことを記している。ところが、宴会に役所の小役人が割り込み、いばりちらして食いあらし、土産ものまで強要したので、ついに禁制になった。平安の初期の話である。

十二月の晦日を大つごもりといっているが、つごもりは、ツゴモリのナマリで、一夜寝ずに祭をする。おコモリの夜だったのである。おコモリに迎えるのは、祖先のミタマであったことは、いうまでもなかろう。

兼好法師の徒然草によると年末に魂祭する習慣は都ではなくなったが、東国へ行ったら残っていたと書いてある。紫式部なども、大晦日に「亡き人の来る夜と聞けど君もなし、我が住む里や魂なしの里」とラブレターを彼氏に贈った。

才女の清少納言は枕の草紙にゆづり葉のことを書いている。

「年の暮には亡き人のお供えに敷き、正月にはお祝いの餅をのせてこの餅（歯固め）を食うと、生命を延べるというのは一体どうゆうことか」と、あの名筆でものにしている。正月の雑煮なんかは、魂祭にそなえたお下りをいただいてミタマノフユを受けたのである。そもそものおこりは新嘗祭に、新穀をもって祖先や神を祭るところから来ている。正月に一番忘れられているのは、祖先の魂祭だろう。どこか元旦に、お墓詣りをする習慣が残っているかも知れない。昔は、正月のお墓まいりさえあった。

こんなことを紹介すると、現代人には縁起が悪いと思われがちだが、そのほうが縁起がよかったのである。わが家に山海の珍味を集め、祖先のミタマを迎えて、十分なお供えをする。カミにもガキにも、お供えおしたり、ハナを与えたりして、コトホギ、一ぱいミタマノフユを集めたものだった。さらに暮や正月に、祝言の門付がよく来たものである。

門松、シメ縄、供え餅、それをただかざるだけでなく、もう少し由来をたずねてみるのもお祝いの一つだろう。

年頭にあたり皆様の御健康とご幸福を祈念すると共に本年も相変らずのご協力をお願い致します。

所得税の確定申告はお早めに

昭和49年分の所得税の確定申告と納税の相談は2月17日（月）から3月15日（土）まで行いますが、期限間近になりますと税務署の窓口が混雑し、落ち着いて相談ができなかったり、長時間待っていただくようなことにもなりますので、申告はできるだけ早く済ませて下さい。

申告書を書くときには、申告書と一緒にお送りしてある「所得税の確定申告の手引き」などを参考にして下さい。

もし、わからない点や詳しく知りたいことがありましたら、気軽に税務署にお尋ね下さい。

また、税務署の他にも、関東信越税理士会、市町村などでも、確定申告の受付期間中は無料で申告の相談に応じています。

又、納税者の依頼による税務代理、税務書類の作成、税務相談などは、一定の資格や要件を備えた税理士だけができることになっています。

ところが、毎年所得税の確定申告期になりますと、税務書類の作成などを依頼する人が多い事に便乗して、税理士の資格のない人が申告書の作成などの仕事をすることがあります。

このような「にせ税理士」は法律に違反するばかりでなく、納税者に迷惑をかけることが多いので国税庁、国税局、税務署では「にせ税理士」に対して厳しい態度で取締っております。

税金のことについて依頼されるときは、正規の税理士かどうか税務署や税理士会に確めてから依頼して下さい。

戸籍の話

子供の出生届をわすれずに

子供が生まれたら十四日以内に必ず届出をしましょう。

出生届をしないといつまでも戸籍に記載されません。

戸籍に記載されていないと、学校へ入学するとき、就職するとき、その他自分の身分関係や国籍（日本人か外国人か）の証明などが必要なときに大変めんどうなことになります。

出生届をするには、役場に用紙がありますから、その用紙に医師か助産婦の証明をもらい、必要事項を記入のうえ届出て下さい。

昭和50年度　毎日奨学生受付中

毎日新聞社、毎日育英会では大学、短大、各種学校に進学を希望する学生に毎日奨学制度を設け利用いただいております。

この奨学制度は学費、食費、住居など一切を育英会が、お世話する制度で、代りに新聞業務の一部である朝、夕刊の配達をしていただくことが条件であり卒業後に学資などの返済を必要としないことが特徴です。

今春も、大勢の青年を社会に送り出し、現在も四、五〇〇人の先輩が奨学生として学んでいます。

毎日奨学生制度の詳細はハガキで左記にお申込み下さい。説明書を送ります。

〒一六〇　東京都新宿区西大久保四の一七〇
毎日新聞社早稲田別館内
毎日育英会事務局
電話（〇三）二〇九―一七一一

人生往来

◎産声

氏名	父の名	部落
村山友幸	民治	田沢

◎高砂

	氏名		部落
新郎	太田淳二	(二八)	新潟市
新婦	樋口京子	(二六)	通り山
新郎	南雲秀夫	(三三)	堀之内
新婦	根津みよ子	(三三)	芋川
新郎	青柳由一	(二八)	十日町
新婦	大口登美子	(二五)	[illegible]地
新郎	村山重保	(二八)	田沢
新婦	増間幸江	(三三)	長岡市
新郎	上原進	(二四)	鷹羽
新婦	柳ルミ子	(二七)	十日町

◎昇天

氏名	年令	部落
南雲ミキ	(八〇)	程島
滝沢謙治	(七〇)	重地
阿部トキ	(八五)	新屋敷
山田一平	(七三)	山崎
富井清太郎	(六一)	市之越

中里短歌

灯明の炎の中に
笑みにつつ
長けし娘見つむ
亡父の浮べり

後に添うての
足音は幾年を
われとあらむか
娘と宮詣る
　阿部清枝

天地（あめつち）の
つきぬ恵みにうるほいて
余生豊かに
年を重ぬる

改まる年の朝（あした）
の静けさを
孫に寄り添い
筆に親しむ
　井ノ川玉治

新年のごあいさつ

教育委員長　関根隆光

新年明けましておめでとうございます。小雪の中におだやかな近年を迎え、村民の皆様にはそれぞれ希望に満ちた初春を迎えられました事をお慶び申し上げます。

昭和も半世紀になろうとしています。「光陰矢の如し」と言いますが、この言葉がひしひしと感じられるようであります。

日本の教育も明治五年に学制が発布されて百年も過ぎました。その間には幾多の変遷を経て、今日のような世界でも最高水準の学校教育が行われる様になった事は、日本国民として誇りでもあり、幸せな事と思います。

当村におきましても、昨年は貝野小学校が村内のトップを切って創立百周年を迎え、同窓生を中心に校区の皆様が一体となって、盛大に、しかも意義ある百周年記念行事が催されました。

今年は田沢小学校、高道山小学校、倉俣小学校の三校が百周年を迎えます。

「温故知新」と言いますが、百周年を一つの節として、二百年に向って中里村の教育が振興しますように、皆様と手をたずさえて頑張ってまいりたいものと存じます。本年も中里村の里をよりよく育てるために、皆様方の御指導と御協力を衷心よりお願い申し上げます。

村民の皆々様の御健勝と御発展をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶にさせていただきます。

抱負

中里村青年会長　鈴木邦俊

新年明けましておめでとうございます。小雪のおだやかな正月をすごされた事と思います。

昨年は、村民の皆様の御指導と御協力によりまして、統一劇場中里公演を代表とする青年会行事を成功に導く事ができたことを会員一同深く感謝いたしております。青年会行事においては、僅かづつではありますが、種々の交流会や講習会と活動の輪を広げてくる事ができたものと思っています。

数年前にスローガンとして掲げました"青年の瞳に輝きを"から現在の"青年の活動が明るい地域社会を作り出す"迄地域社会にとけこめる活動を目指し、私達なりきの努力をしてまいりました。しかしながら、三無主義といわれます現代青年の特質を理解し、多様化している趣味、特技に合った活動を進めるという目的の前途には、大きな問題が山積みされています。

団体活動を嫌う風潮があり、シラケの時代のシラケの世代と呼ばれる今日の多くの青年は、物量は豊富であっても精神的には、荒涼たる現代社会の中で、精神的充実感を求め得ぬままに時をすごしているものと思われます。

青年のおかれている立場をハッキリと認識せずには現代の青年団運動を進める事は不可能でありましょうし、その中において、青年の要求にマッチした活動を作り上げずには地域社会に貢献し得るだけの青年会をつくりあげる事も不可能と思われます。確かに青年の職業の多様化と大きな価値転換が背後にあったとはいえ、全国各地の青年団は崩壊の一途を辿ってきました。

しかし、封建的部落共同体を脱却した地域共同体作りが現在強く求められていると同じように、青年の要求を通じて地域社会をみつめる青年団運動が必要とされているのではないでしょうか。いつの時代にも、青年達が一つの行動を起す時、様々な壁とぶつかったように、私達青年会も村を基盤とした活動を推し進めようとした時、いくつかの壁にぶつかってまいりました。

その代表的な例が村の政治に対する青年の主体的活動であったと思います。青年会員の中にも種々のウワサに耐えられる状況にあるものと、そうでない者とがあります。もっともっと村の事に対して主体的でありたいとすれば、何人かの青年の会員としての脱落を意味し、それが個々の青年の一つ一つの要求をつぶしてしまう事になるという現実に私達は何度かぶつかってきました。しかしながら、それらの矛盾に完全に目をつぶる事は青年会活動そのものの意義をも黙殺してしまう事になりはしないでしょうか。明るい村づくりへの活動、青年個々の学習と研修活動としての青年会活動を私達は定着させねばならないと思います。そうした中で私達が現在でき得る村の政治への発言は、誰もが納得できるだけの学習の上に築き上げられたものであるべきと考えます。現在の中里村の種々の問題に対しても、日本の農村と部落共同体により作り上げられてきた社会的性格を通して分析し、青年はこれらの問題についてどう考えているのかを村民の皆様に堤示したいと思います。私達中里村青年会は現在の村内の政情に対して手をこまねいているのではなく、明日の中里を築き上げるだけの責任のもてる知識を通して近い時期に発言いたしたいと思います。

私達青年会はウワサに弱い立場にあります。だからこそウワサと感情によるところの発言では村の明日を担う青年の責任は果し得ないと考え、会内部の統一された方針により活動したいと思います。開かれた視野を持つ青年の育成のためにも、会員比十四%に達した海外研修経験者の比率をもっともっと高めて行く必要があり、村内唯一のインテリゲンチャーと言われるでしょう教育労働者（聖職か労働者かでは論議のあるところですが）や会員OB、現役会員共々知識の吸収と教育のあり方を求めて交流を深めてまいらねばならないものと思います。

今春、念願であった総合センターが完成いたします。その竣工記念として、老人、婦人、子供、青年、村民が一体となった行事を是非とも計画し、成功させたいと思います。

現在の青年会活動を進める事は、確かに、遠くに見える一点の灯を励ましに進めているものであろうと思われますが。豊かなる青春と、私達の住む中里村の明るい明日を目指し、地域づくりの一翼として会員一同精一杯の努力を傾けたいと思います。ここに村民の皆様のより一層の御指導、御協力を深くお願いいたします。

新型除雪車登場

豪雪農業地域の除雪機械整備に対する国庫補助事業の一環として、激しい競争率を突破して購入された新型強力除雪車（車輪式除雪ドーザ）が去る12月23日役場前にお目見えした。

小松ハフペイローダJH63型という名のこの機械、購入費が一、一六六万円（半額が国庫補助）。引く手あまたの激しい競争を突破して皆様の前に姿を現わした、県内でもめずらしい機械。それだけに威力は強力で、路上の雪をかき集めて（最大除雪深さは1・32M）車体頭部の回転部分で左右に自由に放雪（投雪距離は最大15M）する。除雪後、路肩に寄せられ、日数を経て変化した雪にも有効。道路の拡幅、整備作業にとその活躍が期待されている。

新型除雪機械

年賀交歓会開かる

恒例の年賀交歓会が二日、役場議場で行われた。好天に恵まれたせいもあってか、多数の参加者（九四名）がありました。教育長の挨拶、村長、議会議長の年頭の辞と続いた交歓会も、宴会に移るや祝い歌の合唱、詩吟が飛びだし、なごやかな雰囲気のうちに閉会いたしました。

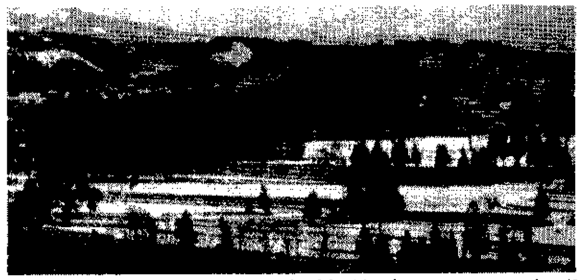
苗場山麓開発

第三地区の皆さんの再考を

高橋忠雄

第三地区関係の一人として、皆さんと山麓開発についていろいろと話し合いたかったのですが、その機会も得られず「なかさと」を利用させていただきます。

当初同じ地区であったのが第二、第三と分かれたその理由には水系別、台地別とかその他の事情があった事は事実ですが、同じ村民のよしみから第三地区の現状を簡単にお話しして皆さんの参考になればと思います。



先ず小松原国有林（標高九〇〇～一、〇〇〇米）の活用については津南町を含む一六〇〇ヘクタールを希望したのですが、営林署では払下面積を最終的に一〇〇〇ヘクタールに縮少したため、当初の各人からの申し込みを白紙に戻し、現在の経営規模を考慮し、一戸一～一・五ヘクタールを配布し中里村関係では、三九ヘクタール（附帯地を除く）三〇名の活用希望者に個人別売渡しが決定し、去る12月27日に立木保償料として（十アール当り二万九千円）総額一千五百余万円の支払いも済み、土地については現在（十アール当り四万二千円）総額一千六百万円で来たる三月一日売り渡しの運びとなっています。

昨年七月、三一名の有志によって小松原活用者協議会（会長鈴木重雄）が発足し、村当局の協力で土地買入れ準備、営農計画、後継者育成先進地視察等数々の事業を通じて熱心な討議、研究を続け、郷土の発展と将来への望みを托し早期開発に意欲と気慨をもっています。

次に津南原は農林省において地元の要望も取り入れた基本計画ができました。未こん地を開発するとともに散在する圃場、現在十アール区割を三十アールに整備し、機械化作業の効率を計る一方、用水確保により、畑にはかんがい施設（スプリンクラー）を整備する事になっています。

利水については、計画中の清津川ダムより導水する構想であったのが、導水出口が清田川、たかば、南雲原と用水系統が二転し、現在の南雲原となっては清津川ダムからの導水は不可能となった。かといって他に水源はなく、大谷内ダムを現在の約三倍の貯水能力に拡大し、更に二つのダムを新設する単独水源であります。第三地区には御承知のように小松原開発地と津南原にかこまれるようになって観光色を強くもった保養基地（用地二四〇ヘクタール）の大がかりな建設がはじまっています。観光、消費、そして生産とが一体となった道路網が基地を中心として発達することでしょう。第三地区でも観光開発に力を入れているようですが、それ自体には異論はありません。各地に観光化が進み、これまでの尺度では計れない考え方が生まれてくるのは当然でしょうが急務である山麓開発をおさえてまで観光化を急ぐところにいささか疑問を感じます。行政のルールにしたがって秩序と節度を把った観光化を進め、農業と観光とを両立させる事こそ農村観光開発の特色であり、そこにこそ意義があるのではないでしょうか。

長野県の菅平という所をご存知かと思いますが、標高一、三〇〇米、積雪一・五米の小さな盆地形の高原です。ここでは農業と観光とが立派に両立しています。戸数一八〇戸、農家の大半が大なり小なり民宿を営み、後継者は夏は農業（人参を主とした高冷地野菜）、冬はスキーの指導員となり、婦人達は民宿の仕事をやっています。

昨年の数字ですが、年間収入は農業で六億、観光で六億とまさしく共存共栄です。自然条件に恵まれていると言ってしまえばそれだけですが、決して他界の事ではなく、この土地でも熱意と努力と指導によってはある程度可能かと思います。

先ず山麓開発周辺の適地を活用し、雪国特有のスキーによる冬季観光にはじまり、その発展度合に応じて秩序ある形での全体的関連をもった観光開発でなければ資源や自然をただ荒されるだけのような気がして仕方ありません。開発と利水対策を切り離して考える事はできないでしょう。世界でもまれに水資源に恵まれた日本も、三十年後の水不足は確実といわれています。郷土に二度とない国営苗場山麓開発こそその必要性は重く、そして急務であり、後世に残す現世代の役目であるかと思います。どうか再考を。

剣道初げいこ

―今年の活躍を願って―

去る三日、田沢小学校において田沢スポーツ少年団の鏡開きが行われた。当日は約三十名の男子にまじって、赤胴に身をかためた七人の女子剣士も参加。体協剣道部員の指導をうけながら元気な気合いをかけ合っていた。練習の合間に話しかけてみたら、鮮かに一本決めた時の気持ちは何とも言えないものだそうで、昔の剣豪で強かったと思う人はという問いには、赤胴鈴之助と宮本武蔵という答がはねかえってきた。未来の剣豪達が残した昨年の成績は左の通り。

中里村村民大会
個人
一位　服部勝志
二位　滝沢和彦
三位　桑原武
総あたり戦
一位　川田茂
二位　滝沢和彦
三位　服部勝志

郡市剣道大会
個人（小学生の部）
一位　滝沢和彦
二位　上原利夫
三位　江口豊
（中学生の部）
一位　樋口博光
二位　滝沢秀雄
三位　藤田幸久
団体（小学生の部）
一位　田沢小Aチーム
二位　田沢小Bチーム
（中学生の部）
一位　田沢中Bチーム
三位　田沢中Aチーム

二市三郡剣道大会
個人（小学生の部）
一位　服部勝志
二印　滝沢和彦
三位　広田増夫
（中学生の部）
二位　樋口博之
団体（小学生の部）
一位　田沢小Aチーム
二位　田沢小Bチーム

第22回新潟県選手権大会
個人（小学生の部）
二位　服部勝志
三位　滝沢和彦

小学生の部においては、郡市剣道大会は個人、団体とも五年連続一位、二市三郡大会においては個人、団体とも四年連続一位という輝かしい成績をおさめている。

各地で家庭学級開かる！

忙がしい農作業から解放され、春の農作業までのしばしの時間を……とは言っても、日常の家事や雑用に追われがちなのが多くの婦人達の立場である。

そうした気ぜわしい生活の中にあっても、家庭の主婦であるがゆえに知っておかなければならない事、身につけていた方が便利な事等が案外と多いものです。こうした自分達の立場を理解する事によって生れてくる学習意欲に支えられた婦人学級が各地で開かれています。その内容は各地によって異るものの、いずれも主婦にとっては密接な関係のあるものばかり。三月迄続けられる学級に一人でも多くの婦人が参加されて楽しく学び合い家庭生活の場に生かされる事を期待したいものです。

正月から二月まで

厳しい冬を忘れての楽しい正月も主婦達にとっては忙しい明け暮れにすぎない。

しかし、それも小正月になるとホット一息する。小正月は「女の正月」「仏の正月」といって餅米洗、小正月の間のご馳走は男衆がするのだとされているからである。しかし、小正月は「作神様」の正月であって、多くの農作の予祝（呪いの一種で事実その通りになるという俗信）の行事が集中している。

神棚や座敷には「稲穂」「作かざり」「花もち」がきれいに飾られる。子供達は「雪ん洞」をつくり鳥追いをするのが十四日の晩。藁を燃やして餅を煮たり焼いたりして食べ、暖かくなったら洞の外に出て柏子木をならし

おらがうらの　わせ田の稲をなんどりがまくらった……

の「鳥追歌」を大声出し乍ら洞のまわりをねり歩き追う。

十五日の朝はいろいろな行事が行われる。先ず子供の鳥追いから始る。昨夜の鳥追いの疲れも忘れ、薄暗いうちに起きて寒い戸外で鳥追い。

若い衆は横槌に縄をつけ、家の廻りを「モグラモッチはどけどけ」と「モグラ追い」

家の中ではオヤジが服装をあらため「イロリ」の中の灰をきれいにならして「苗代」を作る。

神棚には灯明があげられ、小豆粥が煮られるのである。

この朝はイロリの中に口（クチ）のついた器物は入れてはならない事になっている。又、足も出してはいけない。そうすると、春「苗代田に鳥が入る」という事からです。

この朝の小豆粥は、あついといって吹いて食べることさえ忌まれます。「苗代どきに風が吹く」というのです

小豆粥ができると若い衆と子供で「成木責」。

「なるか、ならぬか」の行事である。

朝食がすむと、恵比寿様の他の正月の飾りはとり外す。

これはめいめいが道楽神の広場に運んで「道楽神焼き」の準備をする。準備のできたところでホラ貝などを合図に村中の者が道楽神焼きの煙にあたろうと集る。「夏蚊や蛇にかまれない」「一年中風邪を引かない」といわれています。

子供達はこの火を囲んで道楽神の馬鹿奴が……と歌いながら、自分の書き物が高く舞い上ってゆくのを喜ぶ。

高くあがる事を「習字が上達するしるし」というわけである。

厄年の人達がこの広場でミカンや菓子などを撒いて「厄拂い」としているのが多い。

十六日は女衆の正月だから、この日一日女衆は仕事から遠ざかって楽々とする。

朝は「畦塗り」で生姜味噌、ゴマ味噌を餅にぬり、焼いて食べる「串餅」である。又、この日は「佛祭り」で地獄の釜の蓋もあくといって、全ての使い道具も休ませ、佛様のような気持ちになって「正しく、怒らず、怒られず」に一日を過ごすんだという日でもある。嫁たちは、食事がすめば後片ずけもそこそこに、子どもをおぶって実家へ帰ったり、友達のところへ遊びに行ったり。男衆は、この日ばかりは冷たい炬燵にひっくり返って酔い疲れを治すという人が多い

十七日は「作刈り」あるいは「作とり」である。オヤジは腰に鎌をさして「作かざり」を下げる。家衆の者で実をとる。

十八日は「十八がゆ」で朝小豆粥を食べるのが慣わしで「一年中蜂にさされない」「食あたり」しないという。

二十日は「はつか正月」というが、この日で正月は終る。

朝恵比寿様の飾り魚を下す。朝は小豆粥で夜が本番の「恵比寿様の年とり」「骨正月」「骨っきり正月」である。

正月の魚の骨、頭、尾などをコブで巻いてコブ巻きをつくりなますを作って白いまんまでみんなで食べる。

これでお正月は終ったとするのが一般だが、地域によっては三十一日に「晦日正月」、二月一日に「正月おさめ」「箱ばたき」などを行う所もある。

二日になると「節分」「初午」「事始め」（八日）、「十二講」（十二日）とあるが、機を改めたい。

このごろ生活の変化で、これらの行事の姿が大変かわってきている。しかし、これ丈は私達の村、家でしか味わえないものです。この味わえるものを、みんなで大切に守っていこうではありませんか。

子供会リーダー研修会終る

去る十二月十四日（土）田沢小学校で、村内子供会のリーダー研修会が開催された。当日は小雪模様の天候にも拘らず、村内十八の子供会のうち十二の会から六十六名が参加、映画を見た後動きの小さい室内ゲームを楽しみ、体育館でのゲームでは汗が出てくる程の動き廻りようで、予定された時間もまたたく間にすぎてしまったが、冷たいジュースで喉を潤しながらの交歓会で、来年度は夏、冬の二回にわたって研修会を開催しようとの希望を確認して会を終った。

香典返しに寄附

去る十二月十七日に急逝された、元中里村助役滝沢謙治さん（重地）の御遺族、滝沢新一郎さんから香典返しにと、村に一万円の寄附が寄せられました。心から故人の冥福をお祈りするとともに厚く御礼申し上げます

昭和五十年度 自治医科大学 入学者募集要項発表さる

昭和50年度自治医科大学入学者の募集要項が、この程同大学新潟試験委員会から発表されました。要項を必要とする人は、役場保健課又は県衛生部医務課へ請求して下さい。

住所、電話は次の通り。

〒九五一、新潟市学校町一番町

TEL、〇二五二（二二）三一 九九一一

兎年生れの私の運勢と私の母

農業委員会長　藤田五郎

新年おめでとうございます。年頭にあたり皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。私は〇、七世紀前の兎年生れです。兎という奴は、因幡の白兎になったり、月で餅を搗いたり、亀とかけくらべしたり面白い寓話の持ち主である。私は兎年の日の出と共に呱々の声をあげたそうである。母は「兎年生れの人は運がいいと言うし、日の出と共に生れた人は出世するそうだ」と占い師の様な事を言っていた。所が決して運のいい子ではなかった様である。私は必要以外に物言わぬ少年であったので、母は行く末を心配したそうである。然し友人には大部人気があった様に思われる。父は長兄が十五才、私が満四才の時、感冒をこじらせて五人の子供を残して死去した。「この子供たちのために石に噛りついても死ねない」と言い乍ら息を引き取ったそうである。老祖父母と五人の子供を抱え、三九才と若かった母は部落切っての旧家の家運衰退を守ろうとして歯を食いしばって頑張っていた。長兄は当時田舎では最高学府のような隣村の水沢高等小学校の高等科四年卒業で、村内でも指折りのインテリであり、若い乍らも将来藤田家の相続人として君臨していた。他の弟達は義務教育を終ると宿命であるかの様に家を離れた。私が貝野小学校を首席で卒業、卒業生総代をつとめて帰宅した時、母は「お前は偉い」と小野田少尉のお母さんの様な事を言って頭をなでてくれた。そして「矢っ張り日の出と一緒に生れたからかね」と独り言の様に言うのであった。私はその後血のにじむ様な苦学の末、旧

善悪の蒔いた種は後日必ず芽を出す

制中学校の名門校である東京開成中学の編入試験の難関を突破して帰省した時も、陸軍工科学校入試の大関門を突破した時も同じ様な事を言って肩や背中をなでてくれた。こんな自慢話しの様な事を書くのも亡き母への餞である。母はあらゆる点で母性愛の権化のような、女傑のような人であった。この母が私が二四才の時ポックリ死亡した。兄弟が東京から急遽馳せ参じた時は意識がなかった。母に一番心配かけていた二番目の兄は人前も憚からず号泣した。私は放心した様に、まだ温かい母の手を静かに握りしめていたら脳貧血を起こして気が遠くなった。

私は母亡き後も努力の連続で陸軍技術将校になり、傍ら日本大学の歯科に学んだが、何れも洪水のほとばしる様な勉学であり努力であった。おかしい様であるが「兎年の日の出と一緒に生れた」という母の縁起の言葉に刺激されて出生を夢見た一面がある様に思われる。将校になった時も歯科医師になった時も喜んでくれたであろう母を追慕した。終戦後開業歯科医師として身を立てたが、矢張り歯科医になってよかったと思う。現在母家と廊下づたいの別宅で可愛い孫たちに囲まれて楽しく自適の生活を楽しんでいる。母に言われた程運もよくなかったし、敗戦の為軍人として大出世する事も阻まれた。然し考えようによっては運が良かったのかも知れない今は多くの村民の方から先生、先生と慕ってもらえる。日の出と共に生れたからとて大成できるものでもなさそうである。私も逐々小成に甘んじつ、大金持ちでもないが借金もなく、何不自由なく今日あるは運が良かったのかも知れないと思って又しても恋しい母の瞳が瞼に浮ぶのである。何卒皆さん、本年は童話や運命判断とは違った亀の様に努力し、兎の様に走る年である事を願って新年のご挨拶といたします。

（俗言）昔から今に言われてきたこと

―小柳定夫　採集―

◇寒九（寒に入って九日目）の雨は陽気がいい

◇寒にしみれば（野良が）雪なかし冬中降る雪の半分の量の意

◇寒あけ（節分）に天気が悪いと不良天気が続く

◇月夜廻りは雪は降らない

◇一月十五日の小豆粥を残しておいて十八日にくえば蜂にさされない。

◇初ものを食べれば七十五日長生きする。

◇正月十五日の小豆粥を吹いて食うと田植どき風が吹く。

◇十八粥（一月十八日）をくえば蚊にくわんねぇ

◇どうらく神焼きの火で団子や餅を焼いて食えば丈夫になる

◇寒トロロを食えばその年は病気にかからない。

◇正月七草までにトロロを食わないと虫病みになる。

◇一月十五日の朝雪ん洞にいくと大風邪を引く。

◇便所をきれいにしておくと美人が生まれる。

◇一月十五日の朝茶前に足をジロに出すと苗代に鳥が入る。

◇一月十五日の粥がやっこいと苗代はやっこく、かたいと代がかたくなる。

◇正月納豆の藁ヅトッコを春苗代の水口の両側に立てておくと虫が入らない。

◇朝茶は福がある。

◇正月茄子の夢をみると縁起がよい。（程島部落では「富士の山のように借金しなすになされぬ　それ見たか」といって悪いという）

＝国民年金＝ スライド制で年金増額

国民年金では、これまでおよそ五年に一度、財政再計算といってその時々の物価や生活水準にあわせて、年金額や保険料を見直す方法がとられてきました

しかし、最近のように社会や経済の動きが激しいと、それだけでは年金の値うちを一定に保つことが難しくなりました。

そこで、一昨年の法律改正により毎年の物価が五パーセント以上動いた場合年金額もその率に応じて翌年の一月から調整する、いわゆるスライド制が採用されました。

昭和48年度の物価（全国消費者物価指数）は総理府の調査で47年度に比べて十六、一パーセントの上昇に加えて、一昨年末からの異常な経済情勢もあって昭和49年度に限り四ケ月くりあげて、九月から十六、一パーセント引きあげが実施されました。ただし福祉年金は毎年引き上げが行われるので、スライドはありません。年金を支給するための財源は、加入者の保険料や国庫負担、および利子などでまかなわれています。

したがって、年金の引き上げが行われれば費用の負担もそれに応じて増額される事になります。昨年の一月に、各年金ともおよそ二十五から三十二パーセント引き上げられ、九月からは十六・一パーセントの上積みが行われ、あわせて二十九から三十七パーセントもの大幅な引き上げとなっています。

しかし、保険料は昨年の一月から一か月五百五十円を九百円にまた、今年の一月から千百円とする事にして、加入者の皆さんに急に重い負担とならないように段階的に引き上げる事とされてきました。

詳しくは役場の年金係におたずね下さい。

		スライド前	スライド後
拠出年金	10年年金	150,000円（月 12,500円）	174,500円（月 14,512円）
	5年年金	96,000円（月 8,000円）	111,456円（月 9,288円）
	通算老齢年金	800円×（保険料納付月数）	同 左×1.161
	障害年金	1級300,000円（月25,000円）	1級348,300円（月29,025円）
		2級240,000円（月20,000円）	2級278,640円（月23,220円）

消費生活ニュース

電気毛布の使い方

電気毛布は大変ありがたい文明の発明品でリュウマチや神経痛の人とか、低血圧で手足が冷えて寝つかれない人とか、あるいはお年寄りのお休みの時などに欠くことのできないものになっています。又、若い人でも入学試験のために学習に打ち込んでいる受験生などは、目がさえてなかなか寝つけないものですから寝るすぐ前に風呂に入るか電気毛布を使わせると、湯上りにすぐ布団に入ったと同じようによく寝入る事ができるのでありがたいわけです。

しかし、幼児には使ってはなりません。小さなお子さんは、暑すぎるからといって自分で毛布の温度を加減する能力がありませんし、蒲団からはみ出したら寒くなっても自分でかけ蒲団や毛布を引き寄せる事ができません。もともと乳幼児は、大人より体の熱の発生が多くずっと薄着ですみますから電気毛布は向いていません。せいぜい湯タンポを入れる程度でしょう。大人が使うにしても手まめにスイッチをひねって調整しながら使うようにして下さい。

電気毛布には家庭用品品質表示法により温度調整の方式や使用上の注意の表示が義務づけられていますのでよく読んでから使いましょう。